

第2分科会〈評論との対話〉「三つのアイテムですべての段落を読み解かせる」

発表 大阪府立高津高等学校 吉澤 久良 先生

記録 大阪府立桃谷高等学校 CS I・II部 川内佑里子

第2分科会では、「ファッションという〈力〉」を題材に、評論読解の授業方法を、吉澤先生にご教授いただきました。

吉澤先生の授業スタイルは、教員側が一方的に解説するのではなく、生徒に議論をさせて生徒自身の力で解決していくものです。今回は、評論読解の方法を生徒に考えさせながら体得させるという授業を実演していただきました。

吉澤先生は、評論読解において生徒に体得させたい項目として、①繰り返されるキーワードに着目すること、②接続語によって前後の文の重要度を見分けること、③同じレベルでの二項対立を見つけること、という三点を挙げられました。そして、この三点だけで評論を読み解いていく、実際の授業展開の手順を示してくださいました。

模擬授業の中では、「キーワードをこの範囲から探せ」「ほぼ同内容の部分はどこか」「この範囲での二項対立を指摘せよ」「接続語に注意して、中心ではない部分（具体例や引用）を指摘せよ」などさまざまな問いかけやアプローチの方法を、具体的な文章を用いて説明してくださり、大変参考になりました。また、「教師の授業の設問の精度と定期考査の設問の精度は比例する。計算して発問すべきである」というお話もいただきました。

吉澤先生のお言葉で印象に残っているものは、「なんとなくわかっているということはちゃんとわかっていないということ」というお言葉です。どうしてそう考えられるのかという根拠を筋道立てて説明できること、問われていることにきちんと正対して答えるということを徹底することで、論理的に文章を読み解く力がつくというお話には、自分の日々の経験と照らし合わせてみて、本当にその通りであると深く共感いたしました。

今回の模擬授業を通して、吉澤先生は、「生徒自身が自分で考えたことを、級友や教員との対話により深めながら、文章を読み解いていくことで、『わかる』感動が大きくなる」ということを、お示してくださいました。私たちが生徒役として取り組むことで、生徒の活動を迫体験することができ、より深い理解・納得が得られたのではないかと感じます。

高等学校は、それぞれの学校ごとに特色があり、生徒につけたい力や、現場で要求される授業技術は決して同じではありません。しかし、吉澤先生の方法は汎用性が高く、誰もがどの学校でも授業に生かすことができるのではないのでしょうか。

この「アセンブリー」では、先生方がどのように教材と向き合い、どのように授業づくりをされているのかを知ることができました。貴重な機会をありがとうございました。